

令和5年度 第2学期終業式 校長講話

おはようございます。今日は大陸側から強烈な寒波が日本列島に流れ込んで寒い朝となりました。「地球は温暖化しているのではなかったのか？」という生徒がいるかもしれません。地球温暖化は年間平均気温が上がることの影響もありますが、極端に暑い時期と寒い時期しかなくなると言われています。雨についても、大雨が降るかほとんど降らなくなる等、両極端な気候が現れるようになるとも言われ、そのとおりになろうとしています。

「地球温暖化は陰謀論だ。」という人もいますが、そういう議論ではなくて、確かに農産物の生産が難しくなりつつある環境の中での食料確保について、農業を専門的に学ぶ皆さんは関心を持つべきであると思っています。

この2学期はアグリフェスティバル文化の部・体育の部・農業の部を4年振りとなる制限を設けない実施をすることができました。また、文化の部の時には伝統として行われていた保護者による「ふるまいうどん」が復活し、株式会社内田畜産様のご厚意もありました。来年は生徒の皆さんの主体的な企画・活動を活かした行事になることを期待しています。

今日は「当たり前のことを当たり前にしませう」という話をします。

今週火曜日の職員会議で先生方からの様々な報告がありました。よいこともありましたが、残念なことも聞きました。例えば、「授業中に私語をする人がいる」、「授業中に居眠りをしている人がいる」、「提出物を出さない人がいる」という内容です。「最近、遅刻が増えてきたクラスがある」ということも聞きました。毎朝、「急ぎなさい」とか「あと、〇分」という先生方の声が聞こえますが、私はこれが当たり前の高校の姿であると思えません。

ほとんどの生徒は授業を真面目に受けているし、提出物も出しています。また、遅刻することもないと思いますが、もし、そうでない生徒がいたら、3学期から頑張ってください。

国が高校生の学びの評価として重視していることの一つに「学びに向かう力や人間性が身に付いたかどうか」ということがあります。学びに向かうどころか、学びから逃げているようであれば、各学年、あるいは3年間の教育課程修了の認定を躊躇してしまいます。

日々、先生方が指導されることは「当たり前」のことです。この「当たり前前」の行動が「当たり前前」にできる学校になるよう期待しています。

インフルエンザや新型コロナウイルス感染症が流行しています。健康に気を付けるとともに、節度をもって楽しい年末年始を過ごしてください。

以上で私の話を終わります。

令和5年12月22日

宮崎県立都城農業高等学校

校長 山下 勉